



CentreCOM® 9048XL リリースノート

この度は、CentreCOM 9048XL（以下、特に記載がないかぎり「本製品」と表記します）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.3.3

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.3.2 から 2.3.3 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 GetBulk による SNMP アクセスによってメモリーが減少する場合があります、長期間監視を行っているとき本製品宛での通信に遅延が発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.2 本製品宛での通信で使用する割り込み処理が無効のままとなり、本製品宛での通信ができなくなる可能性がありましたが、これを修正しました。
- 2.3 本製品宛での通信に負荷をかけた状態で SHOW DEBUG コマンドを繰り返し実行すると、本製品がリポートする場合がありますが、これを修正しました。
- 2.4 以下のコマンドの TRAP パラメーターに 64 文字を超える不正な文字列を指定すると、本製品がリポートしていましたが、これを修正しました。
 - ADD SNMP COMMUNITY
 - CREATE SNMP COMMUNITY
 - DELETE SNMP COMMUNITY
 - DISABLE SNMP TRAP
 - ENABLE SNMP TRAP
 - SHOW SNMP TRAP
- 2.5 不正な GetBulk による SNMP アクセスを行うと、本製品がリポートしていましたが、これを修正しました。
- 2.6 通信により FDB に MAC アドレスが学習された状態でトランクポートの設定削除を行った場合、まれに本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 2.7 認証用 DHCP サーバー機能を使用して Supplicant に IP アドレスを割り当てるとき、DHCP Offer パケットにタグが付与され、Supplicant が IP アドレスを取得できない場合がありますが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 2.3.3 には、以下の制限事項があります。

3.1 SNMP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- SHOW INTERFACE コマンドで表示される ifMTU の値および SNMP で取得可能な ifMTU の値が正しくありません。9196 と表示されますが、正しくは 9194 です。

3.2 RADIUS サーバー

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

- 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。
- RADIUS アカウンティング機能有効時に、RADIUS サーバーから Access-Reject パケットを受信すると、本製品から Failed 属性が付加された Accounting-Request パケットが送信されます。

3.3 スイッチング

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- 100Mbps 光ポート (SFP ポート) では、Jumbo フレームのフレーム長は 9000Byte 以下のサポートとなります。
- AUTONEGOTIATE でリンクしている 1000Mbps 光ポート (SFP ポート) に対して、通信モードを 1000MFULL に変更すると、リンクダウンするのが正しい動作ですが、いったんリンクダウンしたあと再度リンクアップすることがあります。
- 100Mbps 光ポート (SFP ポート) において、ミッシングリンク機能がない (または無効に設定されている) メディアコンバーターを経由して通信を行ったあと、本製品を再起動すると起動時にエラーが発生し、通信不可の状態になります。
- スイッチポートが Half Duplex でリンクアップしたとき、バックプレッシャーが動作する場合があります。

3.4 ポートトランッキング

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

トランクグループを以下のいずれかの条件で複数作成し、512 個以上の MAC アドレスが使用される通信が発生している状態で、トランクポートの追加と削除を繰り返し実施すると、本製品がリポートすることがあります。

- ・ トランクグループの所属ポートに 512 個以上のスイッチフィルターが登録されている
- ・ トランクポートの通信モードがポート本来の通信モードと異なる設定になっている

3.5 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

- IGMP Snooping 有効時、IGMP パケットの通信中にグループの所属 VLAN を変更すると、IGMP Snooping 用のテーブルから変更前の VLAN 情報が削除されません。
- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウエアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。
なお、EPSR アウエアについては、CREATE EPSR コマンドの DELETEMCAST オプションで、リングトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリーを FDB から削除する設定が可能です。

3.6 スパニングツリー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

3.7 Web GUI

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

Web GUI でマルチプル VLAN(Protected Port 版)のポート設定を行う際、グループ番号の設定変更とタグなし / タグ付きの設定変更を同時に行うことができますが、個別に変更するようにしてください。

グループ番号の変更とタグなし→タグ付きの変更を同時に行った場合、該当ポートがタグなしとしてデフォルト VLAN にも追加されます。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 9048XL コマンドリファレンス 2.3.2 (613-001280 Rev.D)」の補足・誤記訂正です。

4.1 トリガーエントリーの作成

 **参照** 「取扱説明書」 85 ページ

取扱説明書の 85 ページ「トリガーエントリーの作成」において、CREATE TRIGGER コマンドの ENDTIME と STARTDATE パラメーターの説明に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

- ENDTIME
誤：
ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。
正：
ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。
- STARTDATE
誤：
ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。

正：
ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。

4.2 動作時温度 45°C対応

 参照 「取扱説明書」 128 ページ

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

ファームウェアバージョン 2.1.0 から、動作時温度の上限値が 40°C から 45°C に変更されました。ファームウェアバージョン 2.1.0 以降で動作させる場合、本製品の動作時温度は 0 ~ 45°C となります。ただし、以下の条件下では、2.1.0 以降も動作時温度は 0 ~ 40°C です。

- 垂直方向設置時
- 以下の SFP モジュール使用時
 - ・ AT-MG8T
 - ・ AT-SPLX40
 - ・ AT-SPZX80

4.3 LOOPDETECTION/STORMDETECTION トラップ

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

コマンドリファレンスの以下のコマンドで LOOPDETECTION/STORMDETECTION トラップについての記載に誤りがありました。

- ・ ADD SNMP COMMUNITY
- ・ CREATE SNMP COMMUNITY
- ・ DELETE SNMP COMMUNITY
- ・ DISABLE SNMP TRAP
- ・ ENABLE SNMP TRAP
- ・ SHOW SNMP TRAP

それぞれのトラップの説明は正しくは以下のとおりですので、訂正してお詫びいたします。

LOOPDETECTION :

LDF 検出においてループ検出 / アクション実行 / アクションのタイムアウトや、ENABLE SWITCH PORT コマンドの設定によるアクション実行前の状態への復旧時に送信されるトラップ

STORMDETECTION :

受信レート検出においてパケットストーム検出 / アクション実行 / アクションのタイムアウトや、ENABLE SWITCH PORT コマンドの設定によるアクション実行前の状態への復旧時に送信されるトラップ

4.4 ポリシーベース QoS の最大帯域

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」

コマンドリファレンスの「最大帯域（帯域制限）」についての記載に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

Note - 実際に制限される帯域は、MAXBANDWIDTH パラメーターで設定された最大帯域幅より高いレートとなる場合があります。トラフィックのフレームサイズが小さいほど誤差が大きくなり、最大 15Mbps 程度の誤差が発生します。

正：

Note - 本機能はネットワークの帯域幅ではなく、実際に転送するフレームに対する L2 ヘッダーを含むデータの転送速度の帯域を制限します。

MAXBANDWIDTH パラメーターで設定される最大帯域幅にはイーサネットフレームのブリアンブルなどのオーバーヘッドは含まれないため、トラフィックのフレームサイズが小さいほど誤差が大きくなり、設定値に対して最大 1.5 倍程度の誤差が発生します。

4.5 トランクグループに所属するポートの VLAN 設定変更

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

ファームウェアバージョン 2.3.2 から、トランクグループに所属するポートの VLAN 設定を変更することが可能になりました。

4.6 トランッキングアルゴリズム

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

コマンドリファレンスのトランッキングアルゴリズムについての記載に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

■ トランクグループを通るパケットはすべて、トランッキングアルゴリズムによって割り振られます。このアルゴリズムは、送信元 / 宛先 IP アドレス、TCP/UDP ポート番号（送信元、宛先）と接続ポート数によって計算します。

正：

■ トランクグループを通る学習済みのユニキャストフレームは、トランッキングアルゴリズムによって割り振られます。このアルゴリズムは、以下によって計算します。

- ARP 等の L2 フレーム：送信元 / 宛先 MAC アドレス
- IP パケット：送信元 / 宛先 IP アドレス

ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストフレームはリンクが確立しているトランクグループの最小ポート番号に割り振られます。

4.7 LDF 検出

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- LDF のデフォルト送信間隔は 120 秒です。LDF の検出時間を短くしたいときは、SET SWITCH LOOPDETECTION コマンドの INTERVAL パラメーターで送信間隔を短く設定してください。LDF 検出機能の効果を最大にするには、送信間隔を最小値の 1 秒に設定する必要があります。ただし、送信間隔を短くするとソフトウェア処理に負荷がかかり、本製品宛て通信の応答時間など、他の機能の動作性能が低下する可能性があります。
- 配下の HUB やスイッチにて輻輳などにより LDF が消失した場合、ループを検出できない場合があります。

4.8 EPSR (トランジットノード) 有効化時の動作

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「EPSRアウェア」

ファームウェアバージョン 2.1.1 から、EPSR (トランジットノード) を有効化するときリング接続ポートが両方ともリンクアップしている場合の動作 (各種状態の設定) を次のとおり変更しました。

	バージョン 2.1.0 まで	バージョン 2.1.1 から
EPSR ドメインの状態	Links-Up	Pre-Forwarding
リングを構成する第 1 ポートの状態	Forwarding	Forwarding
リングを構成する第 2 ポートの状態	Forwarding	Blocking

4.9 EPSR リングポートと LDF の併用

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「EPSRアウェア」

ファームウェアバージョン 2.3.2 から、EPSR リングポートと LDF 検出機能の併用が可能になりました。

4.10 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「ポート認証」

- ポート認証機能において、SET AUTHENTICATION コマンドの DEAD-ACTION パラメーターに PERMIT を指定し、RADIUS サーバーからの応答がないときに通信を許可するよう設定する場合は、下記の条件を満たすように各パラメーターを設定してください。

SERVERTIMEOUT > **TIMEOUT** × (RETRANSMITCOUNT + 1) × RADIUS サーバー数

SERVERTIMEOUT SET PORTAUTH PORT コマンドのパラメーター。デフォルト 30 秒 (MAC ベース認証ポートでは 30 秒固定)

TIMEOUT SET AUTHENTICATION コマンドのパラメーター。デフォルト 6 秒

RETRANSMITCOUNT SET AUTHENTICATION コマンドのパラメーター。デフォルト 3 回

RADIUS サーバー数 ADD RADIUSSERVER SERVER コマンドで登録した RADIUS サーバーの数

特に RADIUS サーバーを 2 台登録する場合は、各パラメーターがデフォルトのままだと条件を満たさないため、条件を満たすように設定を変更する必要があります。

- ポート認証機能でゲスト VLAN やダイナミック VLAN を使用し、Supplicant が DHCP サーバーから IP アドレスを取得する場合は、認証前の VLAN において DHCP サーバーのリースタイムを短く設定する必要があります。

4.11 リンクダウンをともなわない認証ポートの移動

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「ポート認証」

ファームウェアバージョン 2.3.2 から、802.1X 認証、WEB 認証において、リンクダウンをともなわない認証ポートの移動が可能になりました。

4.12 Web GUI

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「Web GUI」/「マネージメント」

Internet Explorer 7 以上を使用し、コンフィグファイルやファームウェアを転送する場合の注意事項に、Internet Explorer 9 に関して以下のとおり補足します。

- 「Internet Explorer 7 以上を使用する場合の注意」の Note を下記のように変更します。

変更前：

Note - 本設定は、Internet Explorer 7 ではデフォルト有効に、Internet Explorer 8 で

はデフォルト無効になっています。

変更後：

Note - 本設定は、Internet Explorer 7 ではデフォルト有効に、Internet Explorer 8 / 9 ではデフォルト無効になっています。

- 「Internet Explorer 8 を使用する場合の注意」の見出し名を「Internet Explorer 8 / 9 を使用する場合の注意」に変更し、最初の説明文を下記のように変更します。

変更前：

Internet Explorer 8 で SmartScreen フィルター機能を有効にしていると、設定ファイルの取得に時間がかかる場合があります。この現象を回避するには、以下の方法を実行してください。

変更後：

Internet Explorer 8 / 9 で SmartScreen フィルター機能を有効にしていると、設定ファイルの取得に時間がかかる場合があります。この現象を回避するには、以下の方法を実行してください。

5 サポートリミット一覧

パフォーマンス	
VLAN 登録数	256
MAC アドレス (FDB) 登録数	8K
IPv4 ホスト (ARP) 登録数	-
IPv4 ルート登録数	-
リンクアグリゲーション	
グループ数 (筐体あたり)	16
ポート数 (グループあたり)	8
ハードウェアパケットフィルター	
登録数	64
認証端末数	
認証端末数 (ポートあたり)	320
認証端末数 (装置あたり)	480
マルチブルダイナミック VLAN (ポートあたり)	40
マルチブルダイナミック VLAN (装置あたり)	40
ローカル RADIUS サーバー	
ユーザー登録数	-
RADIUS クライアント (NAS) 登録数	-
その他	
VRF-Lite インターフェース数	-
IPv4 マルチキャストルーティングインターフェース数	-

※ 表中では、K=1024

6 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (パラメーター) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
SET SYSTEM FAN
RESET PORTAUTH PORT
LOAD METHOD=TFTP FILE=filename SERVER=ipadd BOOT
SET IGMP Snooping HOSTSTATUS
SET MLDSNOOPING HOSTSTATUS
SHOW DHCP Snooping DATABASE NVS
SHOW DHCP Snooping HWFILTER
```

7 コマンドリファレンスについて

コマンドリファレンス「CentreCOM 9048XL コマンドリファレンス 2.3.2 (613-001280 Rev.D)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「613-001280 Rev.D」はコマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>